



平成二五年度(第八五回)殉職消防職・団員慰霊祭が、八月二十七日(火)午前十一時から秋田市千秋公園本丸の「殉職消防組員招魂碑」前において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われました。

災害の防止と消防活動の安全を誓う

平成二五年度殉職消防職・団員慰霊祭



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

参列しました。
慰霊祭は、招魂などの神事後、中田潤秋田県消防協会長が「招魂碑に合祀されております四五柱の御霊は、郷土の平安と地域住民の安心・安全を願い、我が身の危険をも顧みず勇猛果敢に懸命な消防防災活動を遂行するなか、尊くも職に殉じられました。不屈の消防魂をもつて最後まで消防人として職責を全うされたその崇高な精神は、県内消防人、約二万人の鑑であり、今も私達の心に生き続け、皆が等しく賛辞するところであり、われら消防人は、郷土愛護の精神と強固な団結力をもって、御霊のご遺訓を胸に、一致団結して厄災を防止し、地域住民の安心・安心のため最善の努力を誓う」と祭主祭文を



平成二五年度全国統一防火標語
消すまでは
心の警報
ONのまま

奏上しました。
堀井啓
副知事は、ご来賓を代表して「諸霊が身をもつて示された崇高な精神と果敢な行動は、本県



消防人の誇りであり、今も私達の心に生き続けております。私達は、諸霊の御功績を心から讃えるとともに、その御遺志に應えるためにも、今後とも消防力の充実や、先の大震災の教訓を踏まえた防災体制の強化に努め、県民の安全と平穏な社会の実現に向け、全力で取り組むことを誓う」と慰霊のごとばを述べられました。
続いて玉串奉奠が行われ、中田会長、ご遺族を代表して北海道旭川市の富永信一様、ご来賓の方々が御霊の冥福を祈り、最後に送魂の神事が行われ、慰霊祭は滞りなく終えました。



**第六七期初任教育入校生
殉職消防組員招魂碑を清掃**
秋田県消防学校

秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われています。
今年も、八月二十七日(火)開催の慰霊祭に先立ち、二六日(月)に九五名の入校生によって行われました。
清掃は、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、碑周辺の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを水をかけて洗い流しました。清掃後、参加者全員が「招魂碑」に向かい黙禱を捧げました。
入校生の皆さんありがとうございました。

第二回理事会

秋田県消防協会

公益財団法人秋田県消防協会第二回理事会は、八月二十七日(火)、平成二五年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、秋田市中通の「イヤタカ」で開催されました。主な協議事項、報告事項についてお知らせします。

【協議事項】

①日本消防協会表彰の上申

まとい、表彰旗、竿頭綬などの表彰(功績章及び精績章の女性枠各一名を含む)については、各支部内申の上申することとしました。優良婦人消防隊、優良婦人消防隊員に関しては、支部からの内申はありませんでした。

②秋田県消防協会表彰

勤続章と功労章は、各支部から上申の上申の授与することが承認されました。

・勤続章

六九三名

・功労章

三三名

③第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会の

草 彌 忠 誠
(大仙市消防団)



剰余金

協議の結果、今年一〇月に開催される、第一九回ぎふ大会の参加費用として運用することが承認されました。

④日本消防協会災害対策支援金

協議の結果、次のとおり交付することに決定されました。

・仙北市消防団

二〇〇,〇〇〇円

・鹿角市消防団

一〇〇,〇〇〇円

・大館市消防団

一〇〇,〇〇〇円

【報告事項】

①消防団二二〇年・自治体消防六五周年記念大会

記念大会表彰については、各支部内申の上申することとしました。

また、記念式典の

グラウンド

内参集者

三〇名が

決まりました。

・指揮者

草 彌 忠 誠

(大仙市消防団)



・旗手

佐々木 善 永

(由利本荘市消防団)

②平成二五年度消防車両の交付要望

各支部から五台の要望がありました。共済加入率や車両保有状況また、交付車両は全国で五九台となつていて等を考慮し、本県から二台要望することとしました。

③第五〇回秋田県消防操法大会

九月六日(金)午前一〇時から由利本荘市道川の秋田県消防学校放水訓練場で開催することを改めて説明しました。開催要領等に変更はありません。

④第二一回全国女性消防操法大会

一〇月一七日(木)横浜市消防訓練センターで開催されること、また、秋田県代表として「大仙市女性消防隊」が出席することを説明しました。

⑤消防団員研修

■消防団員指導員研修

一〇月二六日(土)～二七日(日)

場所・秋田県消防学校

■第三回女性消防団員研修

一月二〇日(土)～二月一日(日)

場所・秋田県消防学校

■全県消防団長研修

一二月五日(木)

場所・秋田市「イヤタカ」

■平成二五年度女性消防団ネット

ワーク会議

二六年一月三〇日(木)

場所・県庁第二庁舎

財団法人日本消防協会から 災害対策支援金が交付される

平成二五年八月九日からの記録的な大雨により、県内で土砂崩れが発生し、多数の死者や住宅の全半壊等甚大な被害が生じました。

この災害に対し、多くの消防団員や関係機関によって、懸命な捜索活動や人命救助活動が行われました。

財団法人日本消防協会では、日本消防協会災害対策支援金交付要綱に基づき災害活動に従事した消防団員を支援するため、公益財団法人秋田県消防協会長に災害支援金を交付しました。

災害対策交付金は、八月四日(水)協会事務局において、日本消防協会秋山昭二業務部長から中田潤会長に贈呈されました。



災害対策支援金の贈呈

第九回 消防団員 意見発表会(二)



大坂 久男

・美郷町消防団 分団長
・勤続三六年
・農業

平成八年指揮者として小型ポンプ操法の部で見事全国優勝の榮譽に輝き、昨年から分団長として分団の先頭に立って訓練に励んでいる。

常に率先垂範でことにあたり、消防団員のみならず、その誠実な人柄と実行力は地域住民からの信望も厚く、幹部としての手腕が期待されている。

「消防団の思い出と今後へ」

私が消防団に入ったきっかけは、地域の先輩消防団員の方々が毎朝早く家に来て入団を勧めてくださったからです。

当時、私の父も「多くの先輩方から指導してもらえ、「知人も多くなるぞ」という勧めもあり、私が二二歳、昭和五十一年四月二二日に仙南村消防団員に任命されました。

小型ポンプ操法、規律訓練は消防の基本動作ですが、慣れない動きも

多く、先輩団員によく指導を行っていただいたものの、上手に動作出来なかつたことを思い出します。

平成五年に小型ポンプ操法の指揮者に任命され、責任の大きさに戸惑いながらも、広域消防職員や消防団幹部のご指導をいただき日々訓練を積み重ねました。

指揮者をやっている、一番思い出に残っていることは、平成八年に県消防操法大会並びに第一五回全国消防操法大会に出場できたということです。県大会も全国大会も実施順番が一番最初ということで、大変な重圧がかかりましたが、見事全国大会優勝という榮譽に輝くことが出来ました。これは、操作員の団結力があってこそですが、そのほかに、行政の後押しや長きにわたり我々の訓練をご指導してくださった分団員のおかげだと思っております。

消防団は、地域・年齢・職業を超え「自分たちの地域は自分で守る」という強い絆で結ばれた組織です。

近年、当町では消防行政無線の設置や防災資機材運搬車の配備、防災センターの整備等災害に対する整備は整ってきました。

今後は、これらの整備をうまく活用しながら、一方では、地域を守る自主防災組織と連携をしながら地域と密着した消防活動を展開していきたいと思えます。

災害が発生した時に活動するのが

消防団ですが、私は平常時から災害が発生しないよう啓発活動にむしろう力を入れて「安全で安心なまちづくり」を目指していきたいと思えます。

最後に、私は現在団員を指揮する立場ではありませんが、私が入団した当時、私を熱く指導してくださった諸先輩方のように地域を守る心と熱い絆を後輩に伝えることが出来るよう私自身も精進していきたいと思えます。

この気持が「安全で安心なまちづくり」に繋がるということを信じて



佐藤 樹徳

・横手市増田消防団 団員
・勤続一〇年
・農業

現在、家族で農業(きのこ、さくらんぼ)を営んでいる。

消防団には、県外から帰って来て直ぐに入団。初めの三年程は火事がなく平穏な日々でしたが...

「初めての火事」

「こんなんで金が入って来た、たな〜」入団して一年目くらいは訓練大会や釜検査に出初め式、それ以外に特に活動がなく、「楽して報酬が貰える」と思っていました。私は二四歳で県外から戻って来て直ぐに消防団に入

団して一〇年になる三四歳の専業農家です。

三年くらい経ったある日、いつもと変わらない秋の夜に、それは突然起こりました。珍しく携帯電話が鳴り出てみると、「火事だ、いぐど」私は、かなりびつくりして着の身着のまま半纏を羽織り、そしてヘルメットを被りポンプ小屋に向かいました。現場に着くなり先輩方は、流石だと思えました。手際よく小型ポンプの設置やホースから筒先の結合、伝令に指揮、いつも楽しく馬鹿騒ぎしている先輩方とは違って、全てが「すげー」の一言でした。

私はというと、焦りすぎてしまい、ただただ先輩方の後ろに続いて行動することしかできませんでした。

「シゲは、三番員だからポンプから離れるな」、「はい」隣には先輩が付いていてくれたので、段々と冷静になってきました。時間が経つにつれて火の勢いも徐々に収まり気持ちに余裕が出てきたら、ある事にふと気がつきました。それは、「めっちゃめちゃ寒い」季節は一月下旬。時刻は夜の一時過ぎ、自分の格好を見れば、ヘルメットを被りジャージに半纏を羽織っているだけ。先輩方を見れば厚着をしているのは勿論のこと、濡れても大丈夫なようにカッパを着てさらにゴム手袋を着けて消火活動を行っていました。「なるほど」と思いました。

実際の火事は、訓練大会だけでは分からない事を色々勉強させてもらいました。一つは服装、前まではただ怪我をしない服装、動きやすい服装で良いと思っていました。しかし、その時の気候も踏まえた服装も大事だと思いました。二つ目に、いっとういう状況でも冷静になる事。冷静になっていけば、服装の事でもあのような事にはならなかったし、現場が想像のつかないような酷い状況でも対応出来ると思います。三つ目に、臨機応変に動く。大会では平らな場所ポンプから火点まで一直線だし、水利は直ぐ近くに豊富にある。しかし、現場では火元と水利はどれだけ離れているか分からないし、水量も不明、ホースの延長も一苦労。次の年あたりから増田では、小さな火事から口では表すことができないような、酷い火事が嫌と言うほど続きましたが、私は初めての火事を教訓にしてほかの火事にも役に立つようにあの三つの事を心がけています。そして、あの時から楽しく馬鹿騒ぎをしている先輩達を凄いと尊敬していますし、何より「消防団は、いつでもどのような火事が起きても出動しなければいけない。そして、優先されるのは人命と財産。この二つを守らなければならぬ。従って消防団は楽ではないし、絶対に無くしてはいけない。」

ご静聴ありがとうございます。



高橋 徹

・羽後町消防団
部長
・勤続二〇年
・団体職員

農協職員として日々忙しく働く傍ら、集落転作協議会の会計を担当。
水、農地の役員を務めるなど、地域からの信頼が厚く、本人も「生まれ育った郷土に尽くす」精神の下、日夜活動しています。

「若い力」

私が所属する羽後町消防団第四分団は、新成地区にあり団員数六一名で昼夜を問わずに消防活動を行っております。

新成地区は稲作やスイカ、そら豆施設園芸、特に花き、キュウリなど団員の仲間も多数農業に取り組んでいます。しかし、近隣の市町村への勤労者も多く、夜間の火災等の災害時は団員の多くが駆け付けてくれますが、日中の有事の際はこの農家の仲間への依存度が大きく、大変ご苦労をかけています。

今後、少子高齢化や若者の地域離れ等の問題も多く不安を抱えています。町ですが、災害は待ってくれません。町や地元企業等に協力を仰ぎながら、課題に取り組んで参りたいと思いま

す。
さて、私が消防団に入団し二〇年となります。二〇年間の中には住宅火災や原野火災、河川の氾濫による水防作業など数々の出動をしてまいりました。

入団したての頃は、規律訓練の練習が嫌で嫌でしょうがありませんでした。たまに練習をサボると、当時の指揮者であり、現羽後町消防団長である佐藤金一団長や多くの先輩方に「なして練習さこねなよ」などと言われ、言い訳するのに大変だったことが思い出されます。次の日練習に行くと、私一人呼ばれ皆の前で「右向け右」や「回れ右」などやらされましたが、今思えば軽いいじめだったのではないかと思えます。

私が勤務している職場に来ては冗談など言ってニコニコしている色黒な父さんが、まじめな顔して練習している姿はとてもかっこよく、そしてとても新鮮でした。

そんな私も、一昨年秋季より部長に任命され、来る七月七日に行われる羽後町消防大会では、指揮者として出場しなければならず、今からドキドキしていますが、自信を持って臨みたいと思います。

それでは、昨年六月下旬の大会に向けた練習での出来事についてお話ししたいと思います。我々の地域でも祖父から父へ、父から息子へと世代交代が進み、毎年若い団員が入団し

てくれます。一週間の練習ですが、農産物の収穫の合間や勤務地から直接参加する人もいます。例年は練習時の人員確保もままならず、前列のみだったり、前列も揃わない時もあり満足な練習も出来ない状況が多くありました。昨年は毎日二五名を超える団員が集まってくれて、特に新入団員や二年目三年目の若い団員が多く見受けられました。どうしてもベテラン団員のようにはいきませんでしたが、ぎこちない動きで必死になって早く覚えたいという気持ちが伝わってきました。そして二日目の練習終了後に、新入団員と二年目の若い団員が私のところへやってきて、「徹さん、右向け右と回れ右教えてくれ」と言い、練習後の練習が始まりました。「かかととつま先を使い、「回れ右はあまり右足を大きく引くなよ」などとアドバイスをする何回も何回も熱心に繰り返し練習してました。その一人の団員が次の日のお昼に私の職場にやってきて、右向け右と回れ右をやって見せてくれました。「おおっ、完璧だね」と言うとうと自慢げに帰って行きました。日に日に練習終了後の練習に参加する若い団員が増えていき、今の若者はたいしたもんだなあと感じました。私が若い頃はろくに出来もしないくせに練習が終わったら仲間を誘い「一杯やるぞ」などと足早に帰った記憶しかありません。最終日には



意見発表者の会場内での様子

皆見違えるほど上手になり、ベテラン団員か新人団員か分からなくなるほど上達していました。

さて、大会当日、彼ら若い団員達は練習どおりの動きをこなし、彼らのお陰で見事優勝することが出来ました。私も本当にうれしかったです。記念写真に写る彼らは、満足感たっぷりで自信に満ちたとても良い顔をして頼もしく見えました。

この若者達が一〇年後、二〇年後、四分団を背負ってくれることは間違いないと、おめでとうございます。

今回の実務研修では、初めて二四時間勤務だった。まだ慣れることはできないが、流れをつかむことはできた。

訓練はホースカー使用要領、筒先配備訓練、渡過、救急訓練を行った。渡過では、毎回一回は落ちていたモンキー渡過を今回は落ちることなく渡りきることができた。それは自分にとってすごく自信になった。また、湯沢雄勝広域消防の渡過線を張る要領は消防学校とは違い、特殊なものだったので今回の実務研修で要領を知ることができて良かったと思う。救急訓練では二人一組で行い、非番時にデパートで心肺停止の傷病者に遭遇したという想定だった。傷病者は壁側にうつぶせ状態で倒れ、頭部側にスペースがない状態だった。私は仰向け状態の傷病者を想定した訓練しか行つたことがなく、焦って傷病者を雑に扱い、気道確保を忘れる



後藤 尚斗
湯沢雄勝広域市町
村圍組合消防本部

**第67期
初任教**

**実務研修を
終えて**

秋田県消防学校

というミスをしてしまった。もし、これが本当の現場なら助かる命も救えない。どんな状況でも自信を持つた一次救命処置ができるように訓練したいと思った。

今回の研修で一番印象に残ったことは、先輩方の優しさだ。私達に困ったことはないかなど気遣ってくれた先輩方が多く、とても嬉しかった。この先輩方と一緒に仕事できることを誇りに思い、少しでも先輩方の役に立てるように残りの消防学校生活を全力で送っていききたい。



湯沢 健太
鹿角広域行政
組合消防本部

七月四日から五日にかけて宿泊の実務研修がありました。泊まりの時の一日の流れが分からなかったのもとても良い機会でした。朝はいつも通り八時二五分に業務引継ぎをし、車両点検をしました。自分は救急車の中の点検をしました。今まで使ったことのないAEDがあったり、血液中の酸素の量を測定したりしました。モニターに写る数字の説明を受け、理解も深まりました。午前は車両の資機材点検でしたが、自分はただ何が車両のどこにあるのかを全然把握していませんでした。資機材の

名称と実物を一致させて、できるだけ早くたくさん覚えたいです。午後は救急訓練がありました。CPRについて学校で教わったものより更に詳しくやりました。死亡原因の順位を知り意外でした。心肺停止には、様々な要因があることも分かりました。実際に場面を想定し実技をやりましたが、自分はまだどういう対応をしていいのかわかりませんでした。基本的な部分はできていたので、技術を向上させたいと思います。

この後に水利調査と巡回にいきました。地域の人の質問に先輩は直ぐ答えていたので、自分もできるように地元のことを勉強しようと思いました。



平川 裕公
能代山本広域市町
村圍組合消防本部

今回の実務研修では、勤務についてから次の交替になるまでの大体の流れがつかめたので、今後に生かしていきたいです。また、自分の未熟さに改めて気づいたので、今までもりも更に勉強と訓練を頑張ろうと思いました。

初めての一日研修ということで、前日は荷物を準備した。当日は緊張しながら迎えた。朝は、上司への申

告を終えて、実務研修をスタートした。

朝の点呼を終えて車両整備を行った。車両整備では車を綺麗にする作業やタイヤの圧力のチェックをした。この基本業務が非常に大切であると感じた。また、昼ご飯の準備や洗濯等の新人の仕事が学ぶことができた。署に帰ってから新人としてやるべきことを早く覚えなければならぬと思う。

次に、消防団のポンプ車操法の設置準備であった。先輩達と資料を協力して作成し、準備することができた。これも消防において大切な役割であると感じる。午後の訓練では、三連梯子やホース等の作業を行った。消防学校での訓練が直ぐに思い浮かんだ。学校での訓練が署に帰っても生きると実感した。訓練を本番のように行う姿勢が大切だということを感じた。夜からは業務の仕事を行った。上司の方に気象日誌の作成の仕方を教えてもらい、自分自身で作成することができた。そこで感じたことは、パソコンにおける重要性であった。夜一〇時半に寝て四時間前に起床し、通信司令室に入り、中の状況を勉強できた。

学校で学ぶことが、職場で生きると感じた。残りの学校生活を充実させたいと思いました。



安田 龍司
男鹿地区消防一部
事務組合消防本部

今回の実務研修は、一日勤務ということで実際の勤務体制を体験してきました。まず、朝出勤して勤務の交替、車両点検、少し時間をおいてからの無線交信に参加しました。その次に、資機材搬送の手伝いをした後、通信司令室の見学、説明を受けました。ドクターヘリの要請のことや、電話による口頭指導の要領などを行いました。

午後の訓練では始めに、ロープの結索訓練、次に三連梯子操法、最後に応急梯子でした。

訓練終了後は掃除をし、夜の車両点検を見学し、通信司令室に勤務しました。私は深夜の二時から四時の勤務だったので、正直なところ眠気との戦いでした。勤務を終えて仮眠室で就寝。朝起きて食事、ゴミ捨て、勤務の交替に参加して実務研修が終了しました。

今回の実務研修で色々なことを学びました。一日勤務はもう一度あるので、次はもっとたくさんさんのことを学びたいと思います。



鎌田 朋大
湖東地区行政一部
事務組合消防本部

七月一四日の朝から一五日の朝まで丸一日実務研修が行われた。この研修は消防学校で六か月訓練するうえで、三か月目の折り返し地点。入校してから学校での勉強の成果を所属の先輩方に見せる機会であるため、気合を入れて研修へと臨んだ。

午前中は化学車、ポンプ車、救助車の資機材点検と予防査察の勉強をした。所属に戻って一番必要とされるのは、資機材の名称を覚えることであり、今覚えられないものはしっかり覚えたい。午後は訓練で、三連梯子、応急梯子、放水訓練を行った。学校での訓練の成果を発揮できるように、大きな声を出し、安全、確実に迅速を心がけた。

実務研修を終えて三か月という訓練で得たものは今所属に帰っても微々たる力にしかならないというところが分かり、これからの三か月は気を引き締めて頑張っていかなければいけないと思った。知識、技術ともにまだまだ消防士と言えるほどのものはないので、良いものはたくさん吸収していきたい。

株式会社 夕 力 ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182) (32) 3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
トーハツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
消防器具各種
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183) (42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183) (73)2588

住宅用火災警報器の設置状況について

(平成25年6月1日時点)

平成23年6月から、消防法の改正により住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

総務省消防庁では、平成25年6月1日時点での推計設置率を公表しましたので、その概要をお知らせします。

◆住宅用火災警報器の推定設置率◆

◎秋田県の推計設置率は78.9%で、前回(平成24年6月時点の推計設置率：75.8%)に比べ、3.1ポイント上昇し、都道府県別の順位でも2つ順位を上げ24位となっています。

◎全国平均は79.8%で、最高が福井県の91.8%、最低は茨城県の64.3%。全国平均を上回っているのは22都道府県、25県が全国平均を下回っています。
(資料提供：秋田県総務部総合防災課)

順位	都道府県名	H25.6時点 推計設置率	H24.6時点 推計設置率	比較増減 (ポイント)
1	福井県	91.8%	90.2%	1.6 P
2	大分県	88.0%	82.0%	6.0 P
3	宮城県	86.9%	88.1%	5.8 P
4	石川県	86.0%	83.7%	2.3 P
5	山口県	85.9%	82.4%	3.5 P
6	広島県	85.2%	82.6%	2.6 P
7	鹿児島県	85.1%	82.7%	2.4 P
8	富山県	83.9%	82.4%	1.5 P
8	兵庫県	83.8%	82.3%	1.5 P
10	神奈川県	83.5%	80.2%	3.3 P
10	新潟県	83.5%	80.8%	2.7 P
12	大阪府	82.9%	80.1%	2.8 P
13	北海道	82.7%	78.8%	3.9 P
13	東京都	82.7%	81.8%	0.9 P
15	和歌山県	82.2%	80.1%	2.1 P
15	長崎県	82.2%	83.5%	-1.3 P
17	山形県	81.9%	79.5%	2.4 P
17	愛知県	81.6%	81.4%	0.2 P
19	福岡県	81.5%	82.2%	-0.7 P
20	京都府	80.9%	87.7%	-6.8 P
21	島根県	80.2%	78.0%	2.2 P
22	熊本県	80.1%	76.9%	3.2 P
23	鳥取県	79.0%	75.3%	3.7 P
24	秋田県	78.9%	75.8%	3.1 P

順位	都道府県名	H25.6時点 推計設置率	H24.6時点 推計設置率	比較増減 (ポイント)
25	岐阜県	78.8%	71.3%	7.5 P
25	滋賀県	78.8%	77.7%	1.1 P
27	佐賀県	77.7%	76.3%	1.4 P
28	岡山県	77.2%	74.4%	2.8 P
29	長野県	76.9%	72.2%	4.7 P
30	青森県	76.4%	76.0%	0.4 P
31	香川県	76.3%	70.4%	5.9 P
31	愛媛県	76.3%	69.8%	6.5 P
33	宮崎県	75.5%	70.0%	5.5 P
34	三重県	75.1%	73.0%	2.1 P
35	埼玉県	75.0%	70.6%	4.4 P
36	群馬県	74.8%	69.0%	5.8 P
37	福島県	74.6%	71.4%	3.2 P
38	岩手県	74.2%	69.2%	5.0 P
39	千葉県	73.9%	71.7%	2.2 P
40	静岡県	72.9%	70.4%	2.5 P
41	山梨県	72.0%	68.3%	3.7 P
42	栃木県	71.8%	68.3%	3.5 P
43	奈良県	71.1%	67.7%	3.4 P
44	徳島県	71.0%	68.7%	2.3 P
45	高知県	67.6%	68.0%	-0.4 P
46	沖縄県	67.4%	60.4%	7.0 P
47	茨城県	64.3%	59.8%	4.5 P
全国平均		79.8%	77.5%	2.3 P

◆秋田県の地域別推計設置率◆

☆地域名は、消防本部等の略称で表記

地域名	推計設置率	地域名	推計設置率
秋田市	82.6%	由利本荘市	70.6%
能代山本広域	88.7%	湖東地区	81.6%
横手市	75.9%	大曲仙北広域	72.0%
大館市	84.2%	北秋田市	82.6%
男鹿地区	72.3%	にかほ市	77.1%
湯沢雄勝広域	71.0%	五城目町	76.6%
鹿角広域	75.3%		

消防半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺田染工場

横手市清川町 ☎32-0416

支部情報アラカルト

女性消防団員の活動

Ⅱにかほ市消防団Ⅱ

平成二五年七月一日現在、にかほ市消防団の団員数は五八一人、内女性消防団員は一六人で活動しています。

女性部の活動で、市内の小中学生を対象とした「地震・津波防災教室」を開催しております。これは、女性部員自らが東日本大震災の津波被害を視察した経験から、自分の身は自分で守る「自助」の重要性を子供た



ちに伝えるために始めたもので、地震の恐さや避難の仕方、地震への備え、地震が起きたら何をしなければいけないのかを、紙芝居や寸劇等で伝えていきます。現在までに市内五つの小学校で開催し、多くの児童が受講しており好評を得ています。そのほかに、幼稚園児、保育園児を対象とした「幼児防火教室」を開催し、幼児期から正しい防火知識を養い、火遊びによる火災を防止することを目的として、楽しくわかりやすいように紙芝居やクイズ等で伝えていきます。

また、新たな取り組みとして応急手当普及員講習の資格取得を目指し

	平成 25 年		平成 24 年			同期比較	
	8 月	累計	8 月	累計	年計	8 月	累計
建 物	13	137	19	163	237	- 6	- 26
林 野	0	38	1	26	30	- 1	12
車 輜	0	29	5	24	38	- 5	5
そ の 他	3	51	7	56	81	- 4	- 5
合 計	16	255	32	269	386	- 16	- 14
死 者 数	0	15	0	14	20	0	1
負 傷 者 数	1	50	8	57	77	- 7	- 7

火災の発生状況
速報値

(秋田県総合防災課調べ)

ております。現在六名の部員が二四時間の座学・実技の講習を受講し、試験に合格して資格を取得しています。今後は市内で開催する普通救命講習等に指導員として参加する予定になっております。

(情報提供Ⅱ由利本荘にかほ支部)

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 協 立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6361
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防

ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備

火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651